

家庭における「食育」の場としてのキッチン

正岡 さち*・川村 加奈子**

Sachi MASAOKA and Kanako KAWAMURA
The Kitchen as a Place of the "Food Education" in a Home

ABSTRACT

キッチンを「食育の場」として捉え、キッチンの現状や子どもが取り組んでいるキッチン作業の現状を把握し、子どもが作業に取り組みやすいキッチンについて検討することを目的として調査研究を行った。主な結果は下記の通りである。

- (1) 業者においても、家庭においても、キッチンは家族のコミュニケーションの場としてイメージされる傾向にあった。
- (2) 子どもがキッチンを利用する際の工夫は、キッチン設備そのものと、キッチン空間におけるものがあった。
- (3) オープンキッチンは「食育」に効果的であると考えられており、キッチンメーカーはキッチンの配置、住宅メーカーは人の生活といったソフト面、工務店・設計事務所は他空間とのつながりやよりハード面に重点を置く傾向にあった。
- (4) 食に関する保護者の教育の影響は大きく、子どもの手伝いには保護者の意識が関連していた。
- (5) 保護者が「食育」につながる工夫は、大きく、①キッチン設備と空間、②知識技術、③子どものメンタル面に分かれた。

【キーワード：キッチン，食育，工夫，家庭，業者，住宅】

I. 緒言

近年、食をとりまく環境の変化により、食の外部化やこ食など、様々な問題が生じている。

そのため、「食」を見直し、食に関する教育、すなわち食育が注目され、平成17年には『食育基本法』¹⁾が成立した。同法第6条にある「食料の生産から消費」には、「調理に関係した作業」も含まれると考える。つまり、「食育」は栄養などの知識を得たり食べたりすることだけでなく、調理～後片付けまで含むキッチンでの調理関連作業（以下、「キッチン作業」と表現する）も大切な取り組みであるといえる。

そして、同法第5条にあるように、家庭は子どもへの食育の重要な役割を担っており、特に、「調理関連作業」の実践は家庭が担う部分が大きく、日々の生活の中で子どもがいかに取り組むかがポイントになると考えられる。

ここで、子どもの家庭での手伝いの現状を見てみると、「家庭でのお手伝い」に関するアンケート^{2) - 6)}では、「食事の準備・片付け」と「簡単な料理」という「調理作業」に関する項目は、手伝いの内容を決めている・決めていないにかかわらず上位にきているが、その割合は低いという結果が出ている。家庭における子ども達のキッチン作業は、実際にはあまり行われていないことが伺える。

一方、「食育」に関する研究や実践について見てみると、栄養や調理そのものの食分野からのアプローチや、子ども達が自分達で育てた野菜を食べる等の農業分野からの

アプローチ、それらが連携した食-農連携のアプローチ等が大半を占めているのが現状である。

そこで、本研究では、キッチンを「食育」の場として捉え、キッチンの現状や子どもが取り組んでいるキッチン作業の現状を把握し、子どもが作業に取り組みやすいキッチンについて検討することを目的として調査研究を行った。

II. 調査概要

本論文は、次の2つの調査から構成されている。

- 調査1…キッチンについての現状を知るため、メーカーを対象としたアンケート調査
- 調査2…家庭での手伝いの現状などを知るため、家庭を対象としたヒアリング調査

III. 調査1 業者を対象としたアンケート調査

1. 調査の目的

キッチン空間の現状と提供側の工夫を把握するため、まず、キッチン関連業者に対して、アンケート調査を行った。

2. 調査概要

調査対象は、島根県松江市と鳥取県米子市内のキッチンメーカー、住宅メーカー、工務店、設計事務所である。調査方法は記述式で、調査内容は、業者のキッチンに

* 島根大学教育学部人間生活環境教育講座

** 元島根大学教育学部生

対する方針、施主からの要望、子どもの調理作業に対する工夫、等である。配布回収は、メーカーに出向き、直接配布し、後日回収を行った。

調査期間は平成20年12月中旬～平成21年1月中旬で、配布部数29部、有効回収部数17部、回収率は58.6%である。

3. 結果及び考察

1) 対象者の概要

回答者の概要を表1・表2に示す。

表1 回答業者

キッチンメーカー	6
住宅メーカー	8
工務店等	2
設計事務所	1
合計	17

表2 回答者の職種

営業	5
アドバイザー・ コーディネーター等	5
設計士	4
インテリア・ コーディネーター	2
現場管理者	1
合計	17

2) キッチン計画時の考慮点

業者に対して、キッチン計画時の提案のポイントについて尋ねた結果を表3に示す。

表3 キッチン計画時の提案のポイント

キッチン メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃性の良さ ・安全性の良さ ・素材へのこだわり ・デザイン性の良さ ・作業効率を上げる ・楽に作業ができる ・対面キッチンのパリエーション ・料理をする家具 ・リビングキッチンという考え方 ・家族が集まり豊かに育まれる場 <p>設備の機能性中心 家族交流の場という捉え方</p>
住宅関連 業者	<ul style="list-style-type: none"> ・施主のライフスタイルに合わせる ・対面キッチン ・豊富な収納 ・水回りとの動線を重視 ・安価で良い品 ・提携先キッチンメーカー品 <p>空間設計中心</p>

対象数が少ないことから、業種の性格によって、住宅全体に係わる業者である住宅メーカー・工務店等・設計事務所を住宅関連業者として1つにまとめ、設備業者であるキッチンメーカーと住宅関連業者の2つに分けて考察した。

キッチンメーカーでは多様な視点があげられ、設備の機能性が多かったことに加えて、キッチンを家族交流の場として捉える視点が多くみられた。一方、住宅関連業者では、キッチン空間を住宅全体の中の1つの空間として捉えるせいか、あまり多くの視点はあがっておらず、空間設計中心で施主や提携メーカーの意見を取り入れる姿勢が伺えた。

3) キッチンに対する施主のイメージ

メーカー側から見て、施主はキッチンに対して、どのようなイメージをもっているかを尋ねた。

その結果、図1に示すように、家事空間、インテリア性、家族のコミュニケーションの場という3つのイメージに分類できた。中でも、今回の調査では「家族のコミュニケーションの場」という回答が大半を占めていた。時代の流れとともに、「調理の場」「見せたくない場」から「家族のコミュニケーションの場」と変化して来たキッチンの歴史を考えると、実際に、施主の持つイメージも、現代的感覚で捉えられるようになって来ているとが伺えた。

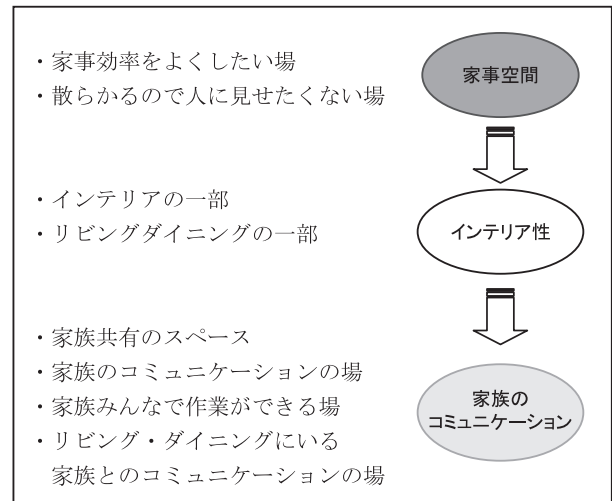


図1 キッチンの捉え方の変化

4) 子どものキッチン利用に対する業者の工夫

次に、子どもがキッチンを利用する際の業者の立場からの工夫について尋ねた。

①子どもが一人で利用する場合

最も多かった回答はケガ防止機能であり、IHクッキングヒーターやチャイルドロック等、安全にキッチン作業ができることを優先していると考えられる。また、子どもの背の低さや力を考慮し、踏み台や低めの作業台を設置したり、タッチレス水栓など、キッチン作業をする上

での子どもの欠点を補う工夫があげられた。

②子どもが家族と一緒に利用する場合

子ども一人の場合よりも多くの回答が寄せられた。特に、半数が対面キッチンをあげており、その他、キッチンの配置や空間のタイプについて、アイランド型やオープンキッチンという回答があった。一方、キッチンの設備等については、子どもが一人で利用する場合と同様、踏み台等による高さ調節、ケガ防止機能の他、作業スペースを拡大する、ダブルシンクにする、といった工夫があげられた。

これらの結果は、図2のようにまとめることができる。

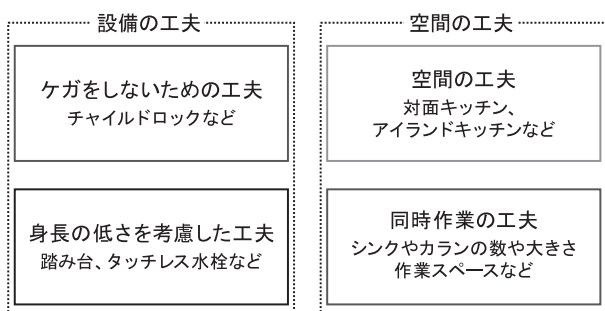


図2 子どものキッチン利用に対する業者の工夫

5) 食育の視点からみた業者の工夫

次に、食育の視点からみた業者の立場のキッチンの工夫について尋ねた。

表4 食育の視点からみた業者のキッチンの工夫

キッチンメーカー	オープンキッチン キッチンの配置(対面等) 音楽を取り入れる キッチン設備の配置に重点
住宅メーカー	オープンキッチン 調理スペースを広くする 高さ調節 調理している姿を見せる 照明によって好き嫌いをなくす 子どもの意見を取り入れる 生活面に重点
工務店・設計事務所	オープンキッチン キッチンの配置 高さ調節 設備などの操作が容易である インターネットに接続して情報を得る ダイニング・リビング・庭と一体化 通風や採光によって健康的なキッチン 他空間とのつながり ハード面重視

表4に示すようにすべての業者が、共通してオープンキッチンを挙げていた。

業者ごとの傾向をみると、キッチンメーカーはアイランドや対面など、キッチンの配置に重点をおいていた。また、住宅メーカーでは、調理スペースの確保や高さ調節などの設備だけでなく、子どもに調理している姿を見せるなど、人の生活面に重点を置いていた。工務店・設計事務所では、キッチン空間と周辺空間の接続を図ったり、風通しや採光といった設計における工夫など、先の2業者に比べると、ハード面に重点を置いていた。

4. まとめ

以上の結果をまとめると、下記のようになる。

- (1) キッチン家族のコミュニケーションの場としてイメージされる傾向にあった。
- (2) 子どもがキッチンを利用する際の工夫は、①子どもが怪我防止と作業をする上で子どもの欠点を補うというキッチン設備そのものの工夫、②対面型にするなど作業中に交流ができる計画と複数的人数で同時作業ができる計画というキッチン空間計画上の工夫、の2つに分けることができた。
- (3) 「食育」に適したキッチンのための工夫は、すべての業者がオープンキッチンは効果的であると考え、キッチンメーカーはキッチンの配置、住宅メーカーは人の生活といったソフト面、工務店・設計事務所は他空間とのつながりやよりハード面に重点を置く傾向があり、業者の業種の特徴により視点に違いが伺えた。

IV. 家庭を対象としたヒアリング調査

1. 調査の目的

保護者の子どもの手伝いに関する意識と、実際の子どものキッチンにおける手伝いの状況を通して、家庭における食育の現状を把握することを目的として、ヒアリング調査を行った。

なお、子どもと保護者は別々にヒアリングを行った。

2. 調査概要

調査対象は松江市内および鳥取県内在住の小・中学生とその保護者で、調査方法はヒアリング調査である。

調査期間は平成21年3月中旬～平成21年5月。

調査数は19家庭で、保護者19人、子ども24人である。19家庭のうち、子どもからのヒアリングが行えず、保護者のみのヒアリングであった家庭が2家庭あった。

3. 結果及び考察

1) 対象者の属性

対象とした子どもの学年と性別について、表5・表6に示す。対象とした子ども全員が、学校のスポーツ少年団や地域のスポーツクラブ、塾など、何らかの習い事に通っていた。

表5 対象の子どもの学年 表6 対象の子どもの性別

小学生	
1年	2
2年	4
3年	1
4年	2
5年	5
6年	3
中学生	
1年	1
2年	4
3年	3
計	24

男子	11
女子	13
計	24

対してどのような意識をもっているのかを尋ね、結果を図4にまとめた。

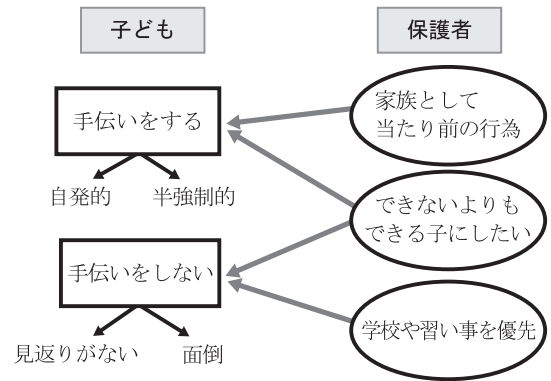


図4 子どもの手伝いの態度と保護者の意識の関連

2) 食事作法

まず、家庭での教育として食事作法の様子について子どもと保護者に尋ねた。箸の持ち方や食べ方、後片付けなどの回答が多く見受けられた。子どもと保護者は個別にヒアリングを行ったが、各家庭においてその回答内容はほぼ対応していたことから、保護者の教えが子どもに伝わっていることが伺えた。

このことから、食育における保護者の影響や役割は大きいと考えられ、食育には保護者の正しい考え方が必要であり、それを子どもに言葉で伝えていくことが必要であると言える。

3) 子どもが実施している手伝い

子どもが取り組んでいる手伝いについて子どもと保護者にそれぞれ尋ねた。

大きく分けて、買い物、調理作業の手伝い、配膳・後片付けの3項目に分かれた。それぞれの手伝いの理由について保護者に尋ねたところ、子どもにおつかいに行かせるのは、家庭の味や調味料などの好みを教えるためという回答もあり、手伝いにはそれぞれ背景があることが伺えた。図3に、手伝いの内容とその背景の関連についてのまとめを示す。

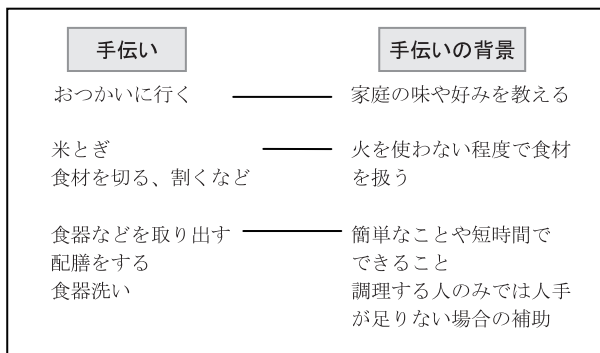


図3 子どもに実施させている手伝いとその理由

4) 手伝いに対する意識

そこで、子どもの手伝いの状況と、保護者が手伝いに

保護者の意識は、大きく分けて、「家族として当たり前」の行為」という積極的肯定派、「できないよりもできる子にしたい」消極的肯定派、「学校や習い事を優先」という消極派の3つに分かれた。

子どもの手伝いへの姿勢は大きく分けて「手伝いをする」と「手伝いをしない」に分かれた。これを詳細にみると、よく手伝いをする子どもは自発的な子どもと保護者から半強制的にさせられているという子どもに分かれた。そして、あまり手伝いをしない子どもは、その理由として見返りが無いからしない子どもと、面倒だからしないという子どもに分かれた。

この保護者の意識と子どもの手伝いへの姿勢は関連が認められ、保護者が積極的な意識を持っている程、子どもが手伝いに参加する姿勢を持っていた。

5) 子どもから見た自宅のキッチン空間

子どもから見た自宅のキッチン空間に対するイメージをあげてもらった。

表7 子ども自宅のキッチン空間に対するイメージ

<ul style="list-style-type: none"> ・広い ・調理台の高さがちょうどよい ・収納スペースが多い ・使い勝手がよい
<ul style="list-style-type: none"> ・調理台の高さが低い ・調理台の奥行きがない
<ul style="list-style-type: none"> ・吊戸棚にぶつかる ・狭い
<ul style="list-style-type: none"> ・汚い ・壁のタイルが汚れている

表7に示すように、広い、使い勝手が良いというイメージの他、調理台が低い、狭い、汚い等のマイナス・イメージもあげられた。中には、「狭いので手伝うと邪魔になりそう」という意見もあり、キッチン空間の物理的

環境を整えることが必要であるケースもあると言える。

6) 保護者の食育への取り組み

次に、保護者はどのようなところで食育にふれ、どのような認識をもっているのか、どのような取り組みをしているのかを尋ねた。

保護者は学校での講話や配布物のほか、職場などでも食育に触れており、機会は多くあるようであった。

そして、実際に子どもに対して行っている食育の内容としては、料理教室に参加したり、食や命の大切さを子どもに伝える、子どもに調理している姿を見せるといったプラス面の意見のほか、食に関する情報があふれすぎるなどメディアへの不満や不安もあった。その他に、食育に関心はあるが、実際にどのような行動をすればよいのか分からず困っているという意見、食の安全性が不安であるという意見も見られた。

同様の質問を子どもにも行ったが、知らない・分からないという回答がほとんどであった。

7) 食育に関する保護者の工夫

保護者に対し、家庭内でどのような工夫が食育につながるかと思うかを尋ねた。

表8 家庭における食育に関する保護者の工夫

キッチン空間	<ul style="list-style-type: none"> ・対面キッチン ・アイランドキッチン ・一緒に作業ができるスペースを確保 ・子ども用の包丁などを用意 ・モノを取りやすい場所に置く ・キッチン空間の雰囲気をよくする
知識技術	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが好きなレシピの本を用意 ・基本的なことを教える →自分のやり方を見つける
メンタル面	<ul style="list-style-type: none"> ・手伝いに対して、感謝の言葉を欠かさない ・家族だから手伝いは当然という意識をもたせる ・子ども自身が考えながら手伝えるようにする

多くの工夫が挙げられたが、表8に示すように、大きく、①キッチンの配置などキッチンに関する工夫、②調理や調理に関連する知識・技術を教えること、③子どもが自主的に手伝いができるようなメンタル面への配慮、の3つに分類することができた。①のキッチン空間に関する工夫は多くの項目があげられており、キッチン作業を食育と捉えた場合、空間そのものや使い方を工夫することにより、子どものキッチン作業の参加がしやすくなる効果が得られると考えられる。

4. まとめ

以上の結果をまとめると、下記ようになる。

- (1) 家庭における食に関する保護者の教育は大きな影響があると考えられる。
- (2) 子どもが取り組む手伝いには背景があり、保護者は何故その手伝いをさせるのかを考えた上で行っていた。
- (3) 保護者は多くの場で「食育」に触れる機会があり、関心も持っているが、その実際の行動には差がある傾向にあった。また、子どもの「食育」の認知度は低かった。
- (4) 保護者が「食育」につながる工夫は、大きく、①キッチン設備と空間、②知識技術、③子どものメンタル面に分かれた。

V. まとめ

2つの調査を通して、下記の点が明らかとなった。

- (1) 業者においても、家庭においても、キッチンは家族のコミュニケーションの場としてイメージされる傾向にあった。
- (2) 子どもがキッチンを利用する際の工夫は、キッチン設備そのものと、キッチン空間におけるものがあつた。
- (3) オープンキッチンは「食育」に効果的であると考えられており、キッチンメーカーはキッチンの配置、住宅メーカーは人の生活といったソフト面、工務店・設計事務所は他空間とのつながりやよりハード面に重点を置く傾向にあった。
- (4) 食に関する保護者の教育の影響は大きく、子どもの手伝いには保護者の意識が関連していた。
- (5) 保護者が「食育」につながる工夫は、大きく、①キッチン設備と空間、②知識技術、③子どものメンタル面に分かれた。

今後は、「食育」の場としてのキッチンについてより具体的に検討する予定である。

VI. 引用文献

- 1) 内閣府：食育基本法
<http://www8.cao.go.jp/syokuiku/index.html>
- 2) 山口県教育委員会：「家庭でのお手伝い」に関するアンケート, 2009
- 3) 松島悦子：「家庭における食事環境と中学生の幸福感」, 東京ガス都市生活研究所, 2005
- 4) 財団法人 食生活情報サービスセンター：<http://www.e-shokuiku.com/>
- 5) 山口県教育委員会：「家庭でのお手伝い」に関するアンケート, 2009
- 6) 大阪ガスクッキングスクール：「食育アンケート」, 2005

